

C F T ニュース&息抜き（6月）

全日本コーヒー公正取引協議会（コーヒー公取協）に寄せられた問い合わせなどを、トピック形式で毎月リリースします。参考になれば幸いです。

1. 2026年5月の気になる問合せ

- (1) 当社ブランドのドリップコーヒー裏面一括表示において「生豆生産国名」と記載すべき箇所が一部製品にて「生豆生産国」となっていることが判明。

正：生豆生産国名

誤：生豆生産国

本件は取引先からの指摘により発覚した。

当該製品は5種類のドリップコーヒーを詰め合わせたアソート製品に使用しているアイテムのうちの1種類で、その他4種類については「生豆生産国名」と正しく記載されている。

指摘内容については、正しいと認識している。

一方で、当社は各ドリップコーヒー製品について、デザイン変更や表示改版等のタイミングに合わせ、順次「生豆生産国名」へ修正対応を進めている。

当該アソート製品についても、その他4種類については改版タイミングに合わせて修正を実施していたが、当該製品については改版対象ではなかったため、見逃した。

当該製品について、「次回版下改訂時に修正する」考え。

本件の当社の対応に関し協議会の見解を示して欲しい。

⇒ コーヒー公正競争規約は、コーヒー生豆の原材料表示は「生豆生産国名」での表示をお願いしています。

この度、御社のアソート製品の一部に「生豆生産国名」でなく「生豆生産国」とあったとのことですが、この製品包材を無駄にせず使用してください。御社の取引先には「コーヒー公取協は当該製品の次回改版時に適正

な表示にすること」で了承を得ていると説明してください。

また、消費者等から疑問を寄せられた時にも同様の説明をしてください。米国のイラン攻撃後、プラ系包材不足や印刷溶液の不足も伝えられているほか、「環境負荷低減」の観点からも資源の有効利用が大事です。

(2) ドリップバッグ個装が 30P 入った袋製品の製品化を進めている。

PB 製品で、表示責任者は当社(株式会社〇〇)。

販売形態が袋なので、外装袋には一括表示等必要な表示が入っているが、個装には客先の意向により一括表示を入れない。

この場合、個装、外装袋共に全日本コーヒー公正取引協議会の公正マークを入れてよいか？

また、マークの色が背景色と同じになっているため、マークの外枠線が背景と一体化してしまい、外枠線が無い様に見えるが、問題ないか？

マークの色を反転させた方がよいか。

⇒ ドリップバッグ個装 30 バッグが同一の製品(使用コーヒー豆が同一生産国など)と理解して回答します。

この個々の同一製品がばら売りなどで販売されることがなく、商品外装パッケージに表示があれば、個々の商品に表示を行う必要はありません。しかし、購入者がバラで販売を行えばトラブルになる可能性があり、その場合、表示責任者に責が及ぶ可能性があります。夏場は山小屋などにおいて 1 バッグ単位で販売される例を聞きます。リスクは御社にあります。

コーヒー公取協としてはこの種製品については、ドリップバッグ及び外装への表示を推奨しています。

この製品の場合、一括表示事項のない個包装バッグへのコーヒー公正マークの使用はおやめください。表示責任者の確認が可能な一括表示事項を記載した外装にコーヒー公正マークを記載されるのは問題ありません。

コーヒー公正マークの色は反転させてください。

2. コーヒーを巡るいろんな状況

コーヒーのニューヨーク相場は、ブラジルコーヒーの豊作予想からアラビカ種コーヒーのニューヨーク相場はポンド当たり 250 セントを割り、2024 年 11 月初めの頃の水準である。当時の円・ドル相場は 1 ドル 152 円程度で今よりは円高である。国際相場が下がってもコーヒーの輸入 CIF 価格は驚くほどは下らないだろう。日銀の金利引き上げは膨大な国債の下では為替相場にはあまり影響ないだろう。多くの生活必需品を輸入に依存する日本には強い円が必要だが今は昔の話となる。

カネフォラ種ロブスタはアラビカ種より更に下がり、2026 年 4 月の両者の価格比をドルベースで見るとカネフォラ種はアラビカ種の半値近い 53%、2024 年 4 月は 81%であったことを考えるとカネフォラ種の値下がりには激しい。気候変動はアラビカ種の栽培を年々難しくしているようだが、品種改良などにより暑さや病虫害に耐性のある品種開発をして欲しい。

トランプ氏のイラン攻撃で尿素が、プーチン氏のウクライナ侵略でリン肥料の供給が難しくなっている。このお二方は前者が不動産業、後者が KGB の Spy という経歴で共に農業活動には無縁である。ただお二人の行為で農業生産に欠かせない窒素、リン、カリのうち前二者の円滑な供給が見通せなくなったほか、農業機械を動かす燃料の高騰をもたらした。資源国のブラジル産コーヒーには余り影響ないと思うが、日本はブレンドコーヒーが多いだけに各コーヒー生産国の生産安定が極めて大事である。

先月末、CFT 子は岩手の温泉に遊んだ。新幹線の移動販売はないと思って大宮駅の自動販売機でコーヒーボトルを買った。座席に座ったらすぐに移動販売車が着いたので思わずコーヒーを買ったが、見ると自販機のコーヒーと同じ会社のコーヒーであった。価格は移動販売車のものが自販機の 2.5 倍の 500 円であったがホットコーヒーにはそれなりの価値がある。

泊ったのは大沢温泉で、この旅館は 10 時から 20 時までロビーのコーヒーマシンでコーヒーを楽しめる。旅館部宿泊者は何杯飲んでも無料だが湯治部宿泊者は 1 杯 500 円である。時々、カフェラテやカプチーノが品切れになる難はあるが好きな時に飲めるは良かった。最近、この種の温泉旅館が増えておりコーヒー好きにはありがたい。

最近、トランプ氏の証券や債券などへの投資が時々報じられる。米国では大統領だからといって投資行為を規制する制度がないとのことだが、大統領令を乱発可能な人だと思ふとこの大統領令の目的は、とってしまふ。中国や日本には「瓜田に履を納れず、李下に冠を正さず」という君子行の戒めがある。米国は為政者のモラルが高いから心配ないということだと思ふようにしているが、トランプ氏は退任時に自分自身や身内に恩赦を出すとも言われている、何のための

恩赦かわからないが、自覚はあるのだろう。

最後に歩道を走る自転車に注意！CFT 子はこの2年間で3度歩道において自転車にぶつけられた。一度目は女子高生で後ろから突然ぶつけられ、よろめく前にスマホが飛んできた。女子高生はぶつけたことより「スマホが！」と叫んでスマホを拾って逃げていった。二度目はフランス人男性で、この時は完全に倒れ、近くを歩いていた方が「大丈夫ですか」と声をかけてくれたが、フランス人は「子供を駅に迎えに行かねばならない」と言って逃げてしまった。見覚えのある顔だったが、以後全く見なくなった。三度目は5月末で後ろからぶつかられ、よろめいたが何とか持ちこたえた。「危ない！」と叫んで後ろを見ると小学4・5年生と思える女の子でこの子もあわてて逃げた。「ごめんなさい」と言ったのはフランス人のみで、日本人と思える小学生も高校生も逃げるだけだった。これからの日本は寒い・寒い日本になるのでしょうか。

(2026年6月10日記)